

学校だより



# ひがし

令和4年10月25日発行  
第9号  
伊豆市立修善寺東小学校  
TEL0558-72-0420

- ◆学校教育目標「よく学ぶ たくましく 心やさしい 東っ子」
- ◆ 重点目標 「自分の考えをもち、表現しよう。人を大切にしよう。目標に向かって挑戦しよう。」

## 全国学力・学習状況調査の結果と考察

4月19日に6年生が行った全国学力・学習状況調査の結果と考察をお知らせします。この調査の目的は、「各学校が児童の学力や学習状況の現状を把握し、子どもたちの学力向上のための取組に生かしていくこと」にあります。本校でも全教職員で結果を分析し、一人一人の課題を把握しながら対策を考えました。各学年の日々の授業に生かすとともに、実態に応じたきめ細かな指導方法を工夫・改善し、学力向上に取り組んでいきたいと思ひます。

### 【教科に関する調査の結果と考察】

★本校の平均正答率は、国語・算数・理科とも、全国平均をやや下回りました。無解答の問題もあり、最後まで粘り強く問題に取り組めるようにする指導も必要だと感じました。

★国語では、「話すこと・聞くこと」の領域の正答率は全国平均よりやや高く、話し手の意図を考えながら聞き、質問したり考えをまとめたりする力が確実に身に付いていることが分かりました。

課題が見られたのは、「人物像や物語の全体像を具体的に想像することと「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよい所を見付ける」ことです。登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して判断する機会を設けていきます。また、「何が書かれているか」という内容面だけでなく「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読む場を設定していきます。さらに、「漢字を文の中で正しく使う」ことにも課題が見られました。漢字を書く問題では、漢字の持つ意味を考えながら適切に使えるよう、形式的な漢字練習にとどまらず、漢字に親しめるような工夫をし、日々の生活の中で習った漢字を進んで使う意識を高めていきたいです。



★算数では、最小公倍数を求める問題は、約8割の正答率でした。

課題が見られたのは、「百分率で表された割合を分数で表す」問題と「示された場面において目的に合った数の処理の仕方を考察する」問題です。基準量を100としてそれに対する割合を表す方法に百分率があり、基準量を1としてそれに対する割合を表す方法に小数や分数があることを理解できるように、今後も丁寧に指導していきます。また、日常生活において、数の大きさを見積もる必要がある際は、目的に応じて数を大きくみたり小さくみたりして、概算できるように指導していきます。さらに、「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する」問題にも課題が見られます。一つ分の大きさ、幾つ分などの関係を捉え、式に表したり、式の意味を説明したりする場を設けます。

★理科では、天気と気温の変化を分析して考察する問題の正答率が、8割以上でした。課題が見られたのは、「予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を考察し、自分の考えをもつ」問題です。根拠のある予想や仮説を発想し、自分の考えだけでなく友達の予想も捉え、予想が確かめられた場合に得られる実験の結果を見通して、観察や実験などを行う場面を設定していきます。また、実験結果を考察して記述することにも力を入れていきます。さらに、メスシリンダーの正しい使い方が身に付いていない子も半数近くいましたので、器具の使い方を再確認します。

### 【児童質問紙調査の結果と考察】

- ★**生活習慣**（朝食を毎日食べているか、同じくらいの時刻に起きているか）については、概ね良好で全国平均とほぼ同じような結果となり、ご家庭と連携しながら進めている取組が、一定の成果となって現れていることが分かりました。
- ★**自己有用感**を問う設問「自分にはよいところがあるか」は、全国平均に比べ「当てはまる」と答えた子の割合が高いです。これからも子どもたちの良さを認めていきましょう。
- ★**学習習慣**（家で計画を立てて勉強をしているか）と生活習慣（同じくらいの時刻に寝ているか）については、課題が見られましたので、学校でも指導をしますが、ご家庭のご協力もお願いしたいところです。
- ★ほとんどの子が「新聞をほとんどまたは全く読まない」と答えていますが、全国的にも**新聞離れ**は進んでいるようです。
- ★「放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか」については、「家で**テレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNS を利用したり**している」と回答した子が7割を超えています。一方「普段家庭で**読書を全くしない**」子が4割近くいます。1学期末の学校評価でも「TV、ゲームやインターネット等を、**家庭での約束を守って利用している**」について「あまり当てはまらない」か「当てはまらない」という回答が4割を超えています。ご家庭で、お子さんと是非話し合っていただきたいと思います。



- ★ほぼ全員が「国語や算数の勉強は大切だと思うか」「国語や算数の授業で学習したことは将来役に立つと思うか」などの設問へ肯定的な回答をします。勉強が大切で役に立つと思えるなど、学ぶことの意義を見込んでいることは素晴らしいことです。さらに学習への興味関心を高め、意欲をもって主体的に取り組めるような働きかけを工夫していきたいと思います。



その反面、理科については、「大切だと思うか」「将来役に立つと思うか」などの設問に対して否定的な回答をしている子が3割程いるのが気掛かりです。**理科の学習の重要性を実感できるような授業展開**を心掛けていきたいと思います。

以上、学力だけでなく学習状況についても見直し、改善を図っていききたいと思います。

これまでの結果から見てきた課題の中で、特に「自己有用感」を高めることについては、今年度改善が見られました。ご家庭でも、「子どもの話を聞く時間」を意識して作っていることと思いますが、近年の傾向として。親も子も忙しくて一緒に夕食を食べられず、夕食後も子どもはゲーム、大人は家事と別々の時間を過ごすという状況が多いようです。しかし、短い時間でも、子どもの話に耳を傾けることで、お家の人に目をかけてもらっていること、大切な存在として認められていることが伝わり、意欲や自信につながっていくと思います。子どもたちの主体性を伸ばし、生きる力を育てていくために、学校・家庭・地域が協力して取り組んでいきたいと考えています。

(文責:井村)